

## 令和2年度 発達障害地域支援マネジメント強化事業について (新型コロナウイルスの影響及び事業実施状況)

特定非営利活動法人わくわくの会

### 【新型コロナウイルスによる影響】

#### 1. 事業への影響

- ・第1波の時は、新型コロナウイルス感染症対策により支援内容を制限した。⇒訪問や支援会議、研修等の開催を自粛するなど
- ・各圏域（離島も含め）への移動が制限された。⇒ケース検討、研修、自立支援協議会などへの参加が制限された。
- ・学校、企業等、他機関への訪問支援が制限された。⇒地域への支援が難しかった。  
\*新型コロナウイルスへの感染者数が減少してきてからは、徐々に支援を開始できた。

#### 2. 当事者への影響

- ・新型コロナウイルスへの感染に対する不安が高くなり、外出の機会が減った。⇒社会参加が減った、ストレスが高くなるなど
- ・いつもと違う生活様式（マスク・手洗い・外出制限など）の変化⇒馴染めずストレスが高くなるなど
- ・解雇、給与カット⇒経済面での不安が高くなるなど
- ・求人、実習先が少ない⇒就職活動がうまくいかないなど
- ・学校に関して：新年度のスタートが上手くいかない⇒学校に馴染めない、友達関係が築けないなど（不登校の相談が増えた）

#### 3. 家族への影響

- ・自宅で家族と一緒に過ごすことが多くなった。⇒お互いがストレスフルになり、家族関係が悪化したなど
- ・コロナ禍で相談をすることを躊躇した。⇒家族で問題を抱え込み、更にストレスフルになるなど

# 発達障害地域支援マネジメント

- 特定非営利活動法人わくわくの会に委託
- 地域支援マネージャーを配置し、発達障害が疑われる事例や、通常の支援が難しい困難事例等に対応する事業所等支援機関に対し、発達障害に対する理解を深め、困難ケースを含めた支援を的確に実施できるよう助言・指導する
- 困難事例に対応できる支援者の育成を実施し、地域支援体制の整備強化を図る

---

## 具体的な支援内容

- 困難事例に対応できる支援者の育成
- 圏域で抱える困難事例に対する支援
- 支援ノウハウの調整、普及、事例の整理等



地域の皆さんと共に発達障害児（者）の方々とそのご家族が安心して生活できる地域作りを目指しています

# わくわくの会の取り組み

- ① 相談：来所・電話・訪問・支援会議・同行
- ② 居場所の提供
- ③ 自己理解を促す講座  
(SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント、就労準備・定着等)
- ④ 余暇支援・イベント
- ⑤ 当事者会
- ⑥ 家族会
- ⑦ 研修（発達障害の理解・サポートノートえいぶる 等）
- ⑧ ペアレントトレーニング、ティーチャーズトレーニング
- ⑨ 資料集の作成
- ⑩ その他

---

## 相談での対応

- ・ 想いを傾聴し、不安を軽減、信頼関係の構築
- ・ 十分なアセスメントにより支援の方向性を確認
- ・ 具体的な困りごとに関しては、自己理解を高めて工夫を一緒に考える
- ・ ご本人の困り感や、置かれている環境をアセスメントし、調整を行う
- ・ 他機関（地域の関係機関）との連携、役割分担と地域の支援システムの構築
- ・ 那覇市発達障害サポート事業、沖縄県療育等支援事業、合理的配慮に係る教育支援機器等整備事業と協働し、県全体として発達障害児者や気になる児者への相談を受け、地域の相談員と連携する

# 令和2年度相談状況 (R2.4月~R3.1月)

## 【市町村別利用者数】

市町村	実人数	述べ人数
名護市	1	3
恩納村	1	15
うるま市	2	3
読谷村	2	2
宜野湾市	2	20
北谷町	1	5
沖縄市	2	23
北中城村	1	4
那覇市	0	0
浦添市	14	63
南風原町	12	149
与那原町	2	4
豊見城市	13	106
糸満市	7	43
南城市	9	45
八重瀬町	4	85
西原町	10	74
南大東村	3	5
座間味村	1	1
渡嘉敷村	1	1
竹富町	1	2
不明	1	1
合計	90	654

## 【圏域別利用者数】

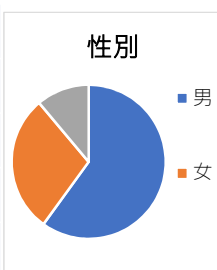
圏域	実人数	述べ人数
北部圏域	2	18
中部圏域	10	57
南部圏域	76	576
八重山圏域	1	2
不明	1	1
合計	89	654

\* 那覇市は市単独事業『発達障害者サポート事業』（わくわくの会委託）にて対応しているため、実績は0になっている。

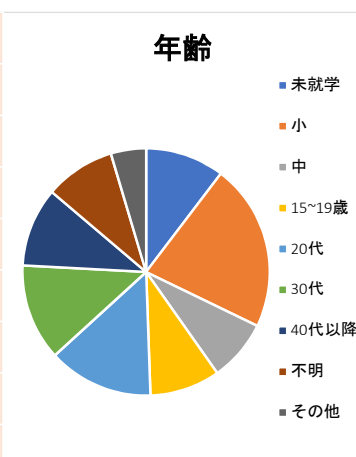
# 令和2年度相談状況内訳 (R2.4月~R3.1月)

\* 実人数：90人（述べ人数：654人）

性別（実数）	
男	54
女	26
その他	10
合計	90



年齢（実数）	
未就学	9
小	19
中	7
15~19歳	8
20代	12
30代	11
40代以降	9
不明	11
その他	4
合計	90



相談者（実数）	
本人	21
家族	45
相談員	2
支援員	8
教職員	0
その他	14
合計	90

診断（実数）	
有り	42
無し	21
不明	27
合計	90

支援方法（延べ数）	
来所	141
電話	271
訪問	6
メール	26
支援会議	8
その他	1
同行	10
学校・企業	1
研修	0
保護者	4
Pトレ	15
就労前準備	22
就労定着	43
本人	39
居場所	67
合計	654

## 相談内容

- ご家族⇒子ども（成人も含む）の特性理解と関わり方についての相談、家族関係の悪化による相談、保育・幼稚園・学校・デイサービス等、日中活動の場の環境調整の相談
- ご本人⇒生きづらさと困りごとをどう軽減していけばいいのか？対応策の相談
- 支援者⇒困難事例となっているご本人やご家族への支援についての相談

---

## 新型コロナウイルス感染拡大による相談

- 職場の解雇・給与カットされ経済面での不安がある
- 求人が少ないために就職活動がうまく行かない
- 緊急事態宣言が発令されたことで、新年度のスタートがうまく切れず学校に馴染めない
- 新型コロナウイルスに対する不安が高く外出の機会が減った
- いつもと違う生活様式に馴染めずストレスが高くなった
- 自宅で過ごすことが多いため、本人・家族がお互いストレスフルになり家族関係が悪化した など

## 課 題

- 各分野の支援者の人材育成：不適切なかかわりで、二次障害につながっているケースがある（克服するという考え方）、本人支援（発達支援）・家族支援・地域支援の視点が不足している
- 地域の支援システムの構築について：各圏域の人材育成（支援者のスキルアップ）のための具体的な取り組み方（手法）の検討が必要⇒例えば：各地域の支援者が繋がり、多職種が集まったの定期的な事例検討の場を作り出す等の仕掛け等
- 市町村により、発達障害児者の支援について差がある⇒どこに住んでいても、同じように支援を受けられるような体制の構築（支援者の育成）
- 新型コロナウイルス感染症に関して、昨年度、今年度ともにペアトレやTトレ養成講座や研修等の実施が難しい（次年度はリモートでの実施も検討中）

---

## 課 題

- 身近な地域で安心して集える居場所・身近な地域で交流できる当事者会が少ない⇒地域の支援者と協働して、身近な地域の中に居場所・交流できる場を増やす
- 就労支援をすすめる中で、実習先や就労先を探すことが困難なケースが多い
- 地域のパーソナルサポートセンターや、地域若者サポートステーションと連携しながら就労支援を進めている方もいるが、スムーズに就労につながらない
- 手帳を持っていない方は、クローズで働いている場合が多く、職場の理解が得られず、失敗体験の積み重ねで自信を失っていることが多い
- 診断・手帳の有無にかかわらず、支援を必要としている方に必要な支援が届くようなシステム（企業の理解促進、手帳の有無にかかわらずお互いの違いを尊重でき助け合うしくみ等）を作ることが必要

# 次年度の取り組み

- 個々のケースを通じて、他機関・地域の支援者と連携しサポートを行う
  - サポートノートえいぶるの普及・啓発
  - 福祉サービス事業所、保育園、学童等に対して、各圏域の支援者と協働してティチャーズトレーニングを実施し、地域の支援者の育成を図る
  - ペアレント・トレーニング、ティチャーズトレーニングの指導者養成研修を実施し、指導者の育成を図る
  - がじゅま～る、各圏域の相談部会等と連携し、各圏域での発達障害児者支援の研修を実施する
  - 各圏域、市町村で、当事者・家族が安心して集える居場所ができるよう、圏域の自立支援連絡会・市町村自立支援協議会に働きかけていく
  - 資料集の作成
-